

# 新潟港海岸（西海岸地区）生物分布状況資料

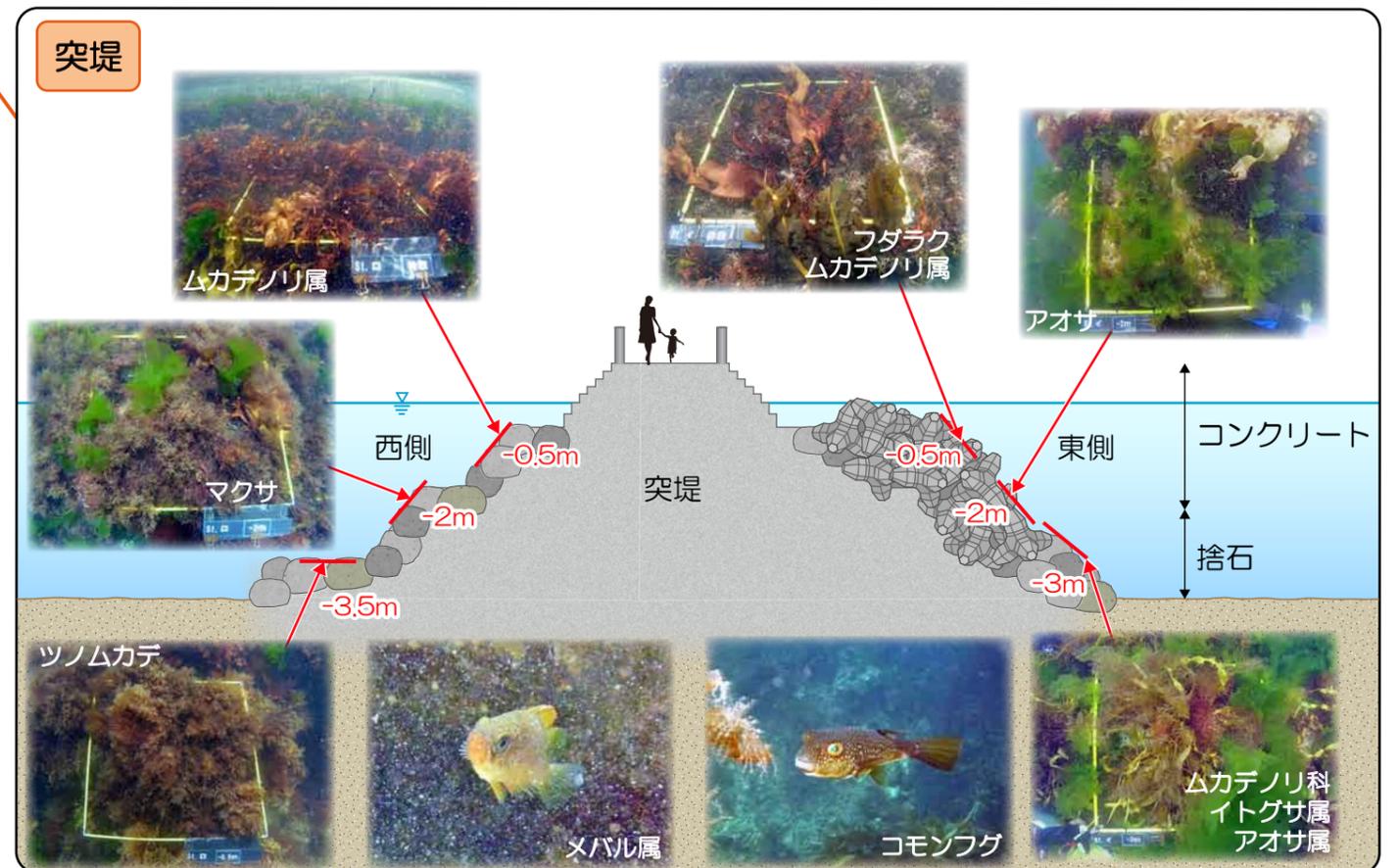
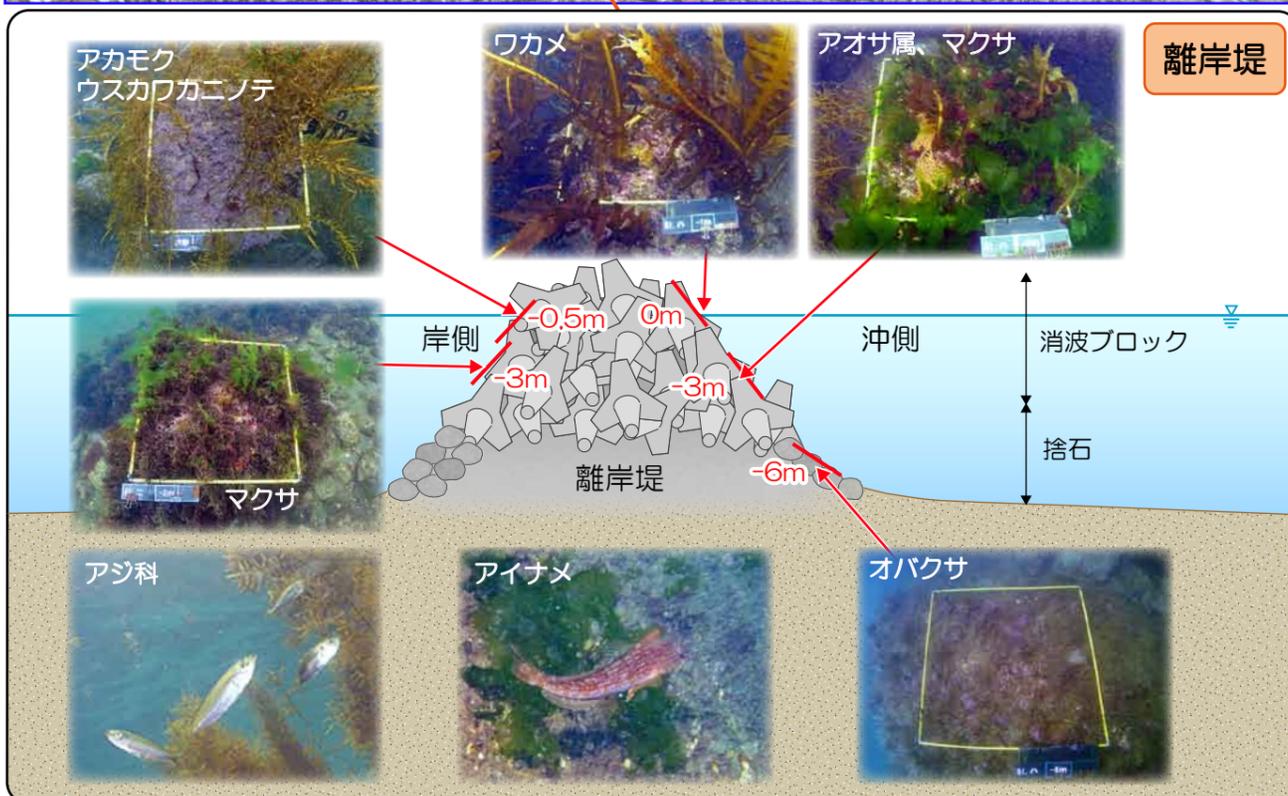
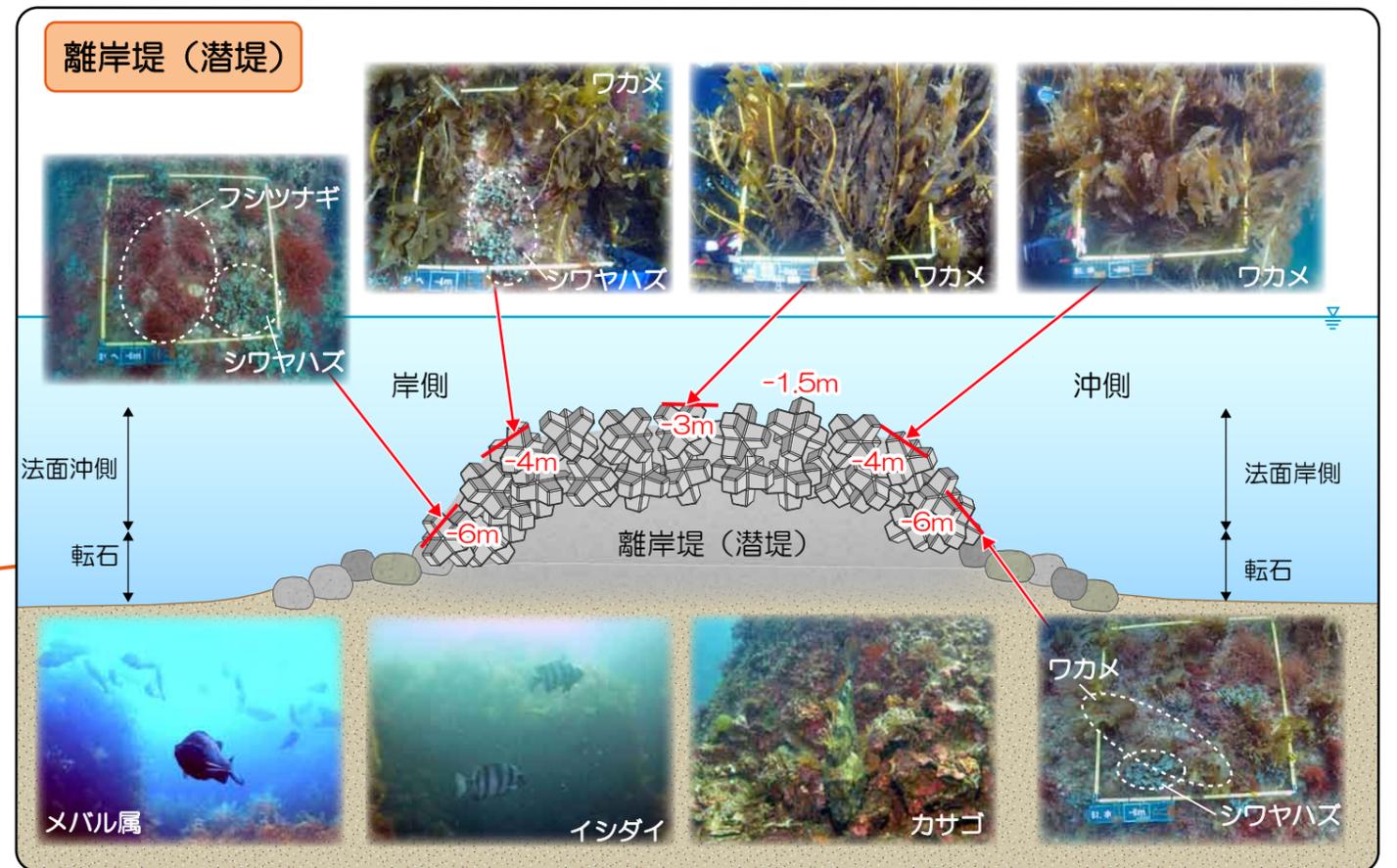
現在の生物分布状況（平成 25 年 6 月調査）

**離岸堤（潜堤）：**海藻類は、ワカメ、シワヤハズ、フシツナギなどが生育している。また、突堤や離岸堤ではあまりみられなかったイワガキが確認されている。魚類はメバル属、アイナメ、イシダイなど 17 種確認されている。

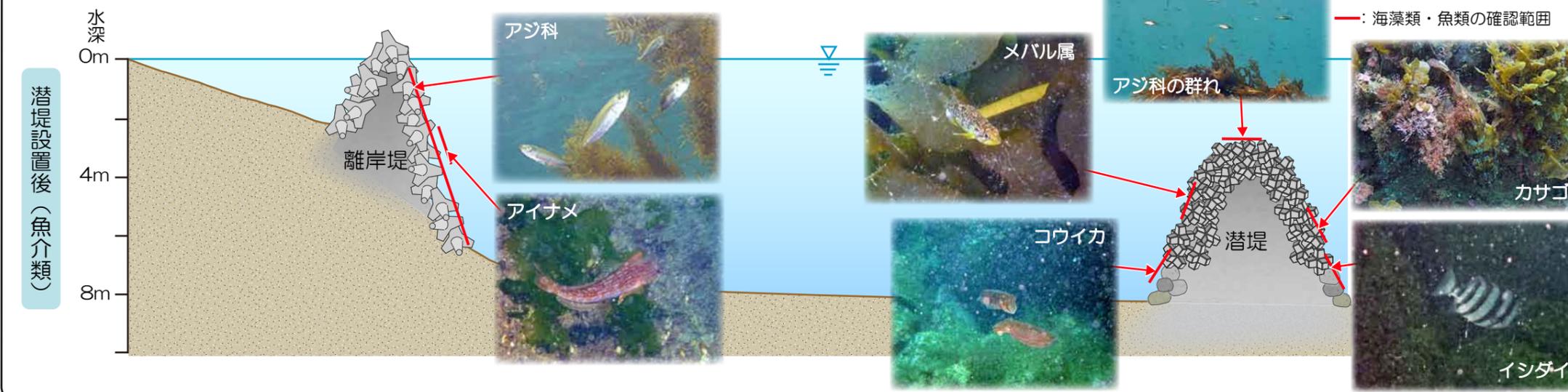
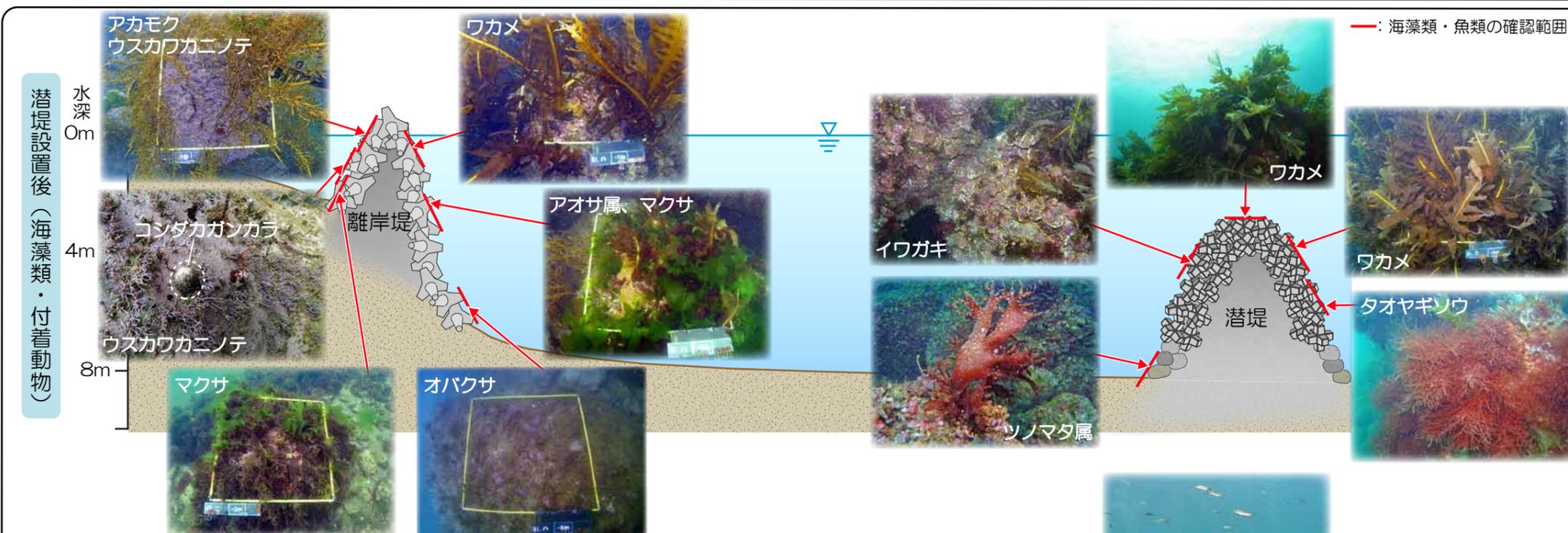
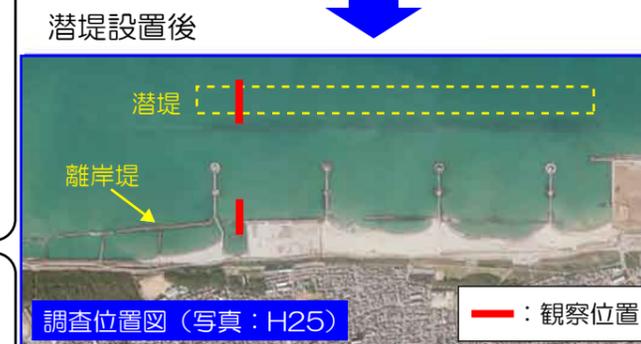
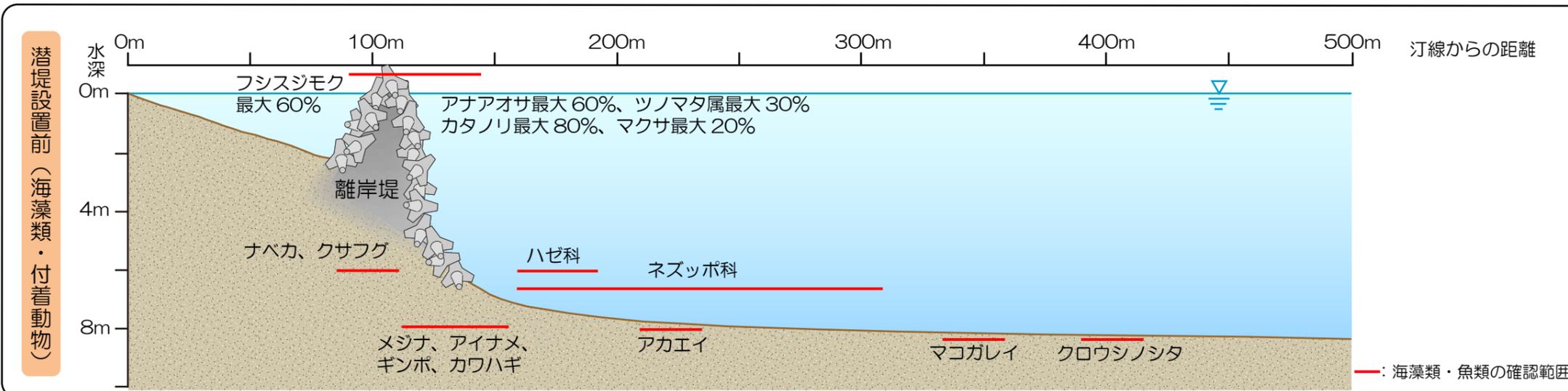
**突堤：**水深 2～3m 周辺ではアオサ属やマクサ、水深 0～1m 付近では、ソソ属、ムカデノリ属などの海藻類が生育している。魚類は、メバル、ウミタナゴ、コモンフグなど 6 種が確認されている。

**離岸堤：**沖側の離岸堤（潜堤）で多くみられる海藻類とはやや異なっており、アオサ属、マクサ、オバクサ、サビ科、ウスカワカニノテ、ワカメなどが生育している。魚類はアイナメやアジ科など 10 種が確認されている。

◆まとめ：海藻類、付着動物、魚介類は、日本海沿岸で一般的にみられる種が生息している。



事業実施に伴う生物分布状況の変化（昭和61年と平成25年の調査結果比較）



◆離岸堤（潜堤）設置前後の生物生息状況

- ・海藻類  
設置前は生息する場所がなかったため海藻類はみられなかったが、離岸堤（潜堤）設置後には、ワカメやタオヤギソウなどの海藻類が多く生育している。
- ・付着動物  
設置前は生息する基盤がなかったため付着動物はみられなかったが、離岸堤（潜堤）設置後には、イワガキが多く生息している。
- ・魚介類  
設置前は海底に生息しているネズップ科、アカエイ、マコガレイなどが確認された。離岸堤（潜堤）設置後には、アイナメ、カサゴ、メバルなどの岩礁性の魚類がみられている。

◆まとめ  
新たな付着基盤ができたことにより、ワカメなどの海藻類やイワガキ、岩礁を好む魚類が生育しており、多様な生態系が形成されている。

※離岸堤（潜堤）設置前は、海岸から500m沖までを観察範囲としていたが、設置後は離岸堤と離岸堤（潜堤）の構造物を観察しているため、ハゼ科やネズップ科など砂底に生息する種が確認されなかったと考えられる。

平成 16 年 6 月と平成 25 年 6 月の調査結果比較

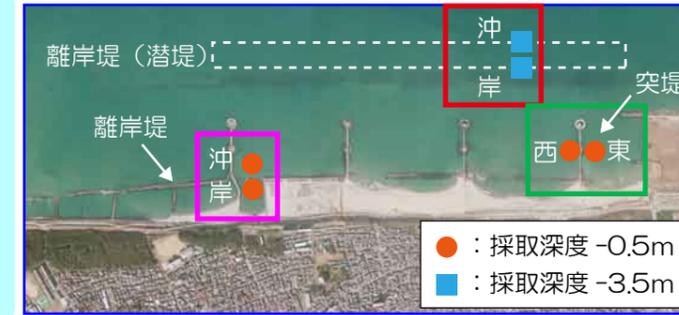
◆種類数

海藻類・付着生物は離岸堤、突堤、離岸堤（潜堤）で平成 16 年 6 月に比べ平成 25 年 6 月に種類数が同程度か、増える傾向であった。（約 50-80 種→約 60-80 種）

◆海藻の生育状況

海藻類は、水中写真をみると平成 16 年、平成 25 年ともに、同程度の出現状況であり、沖合いと岸側の設置場所の違いや、水深帯によって優占する種が異なり、多様な海藻種が繁茂している。

◆まとめ：海藻類・付着動物の種類数は経年的に同程度か増加傾向であり、構造物の場所や水深帯により多様な海藻種が出現し、構造物の基質や藻場に依存して生息するフジツボ類、微小なヨコエビ類、貝類などの付着生物が出現している。



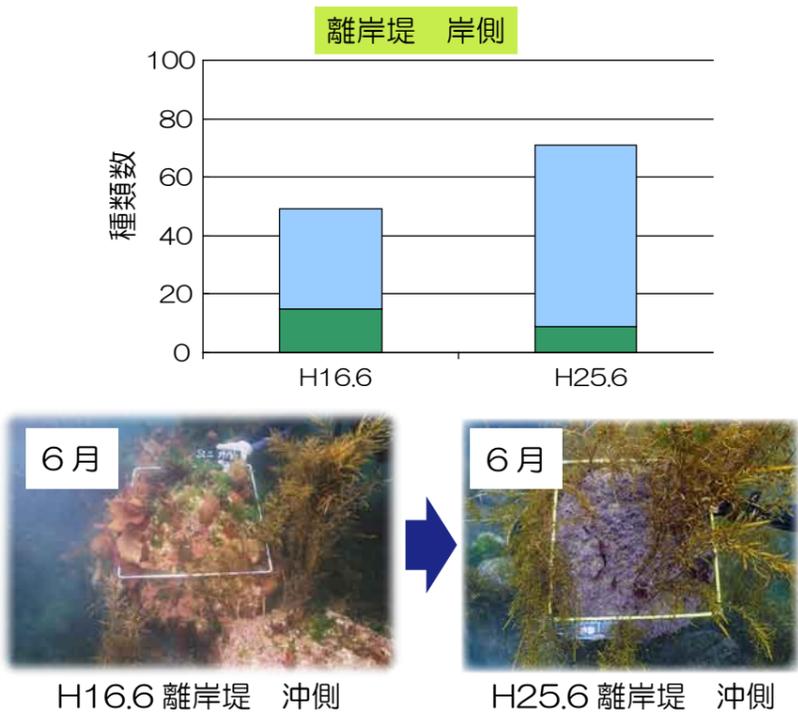
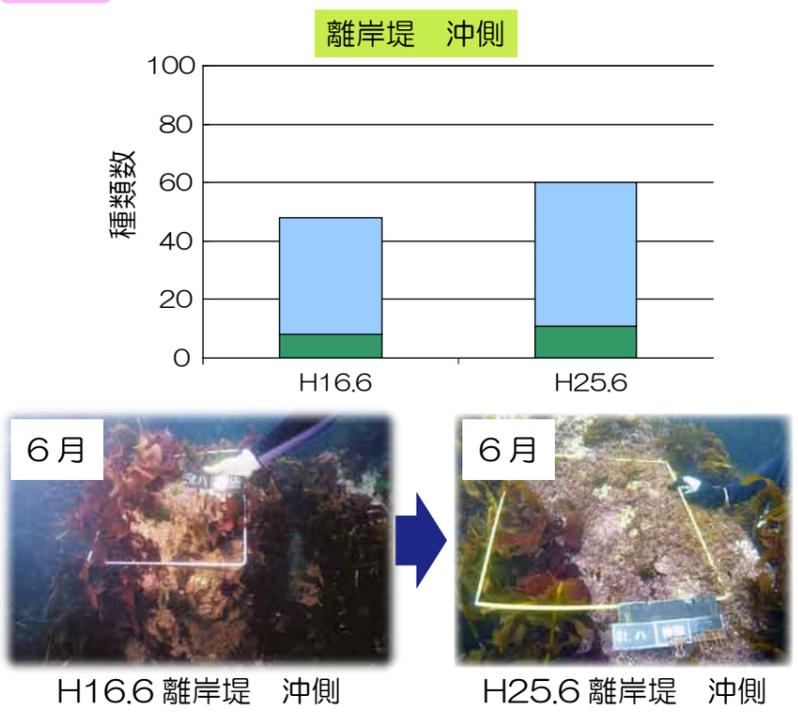
主な出現種（海藻類）



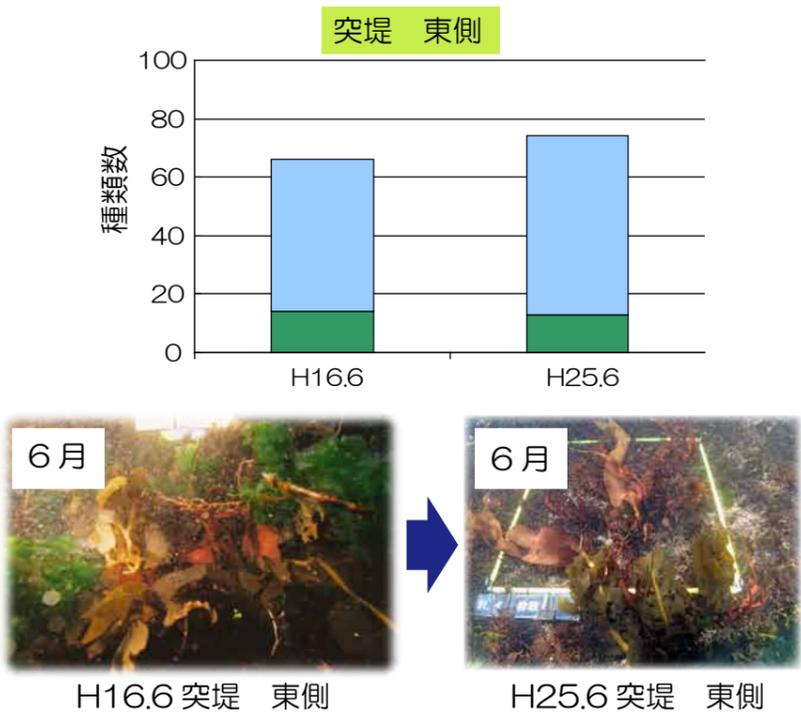
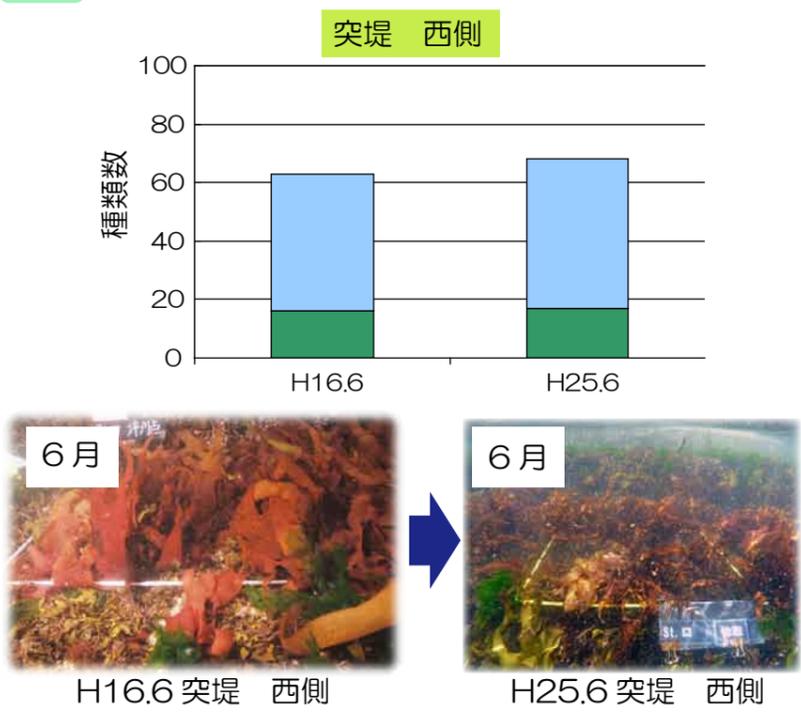
主な出現種（付着動物）



離岸堤



突堤



離岸堤（潜堤）

